



一般財団法人

山形県理化学分析センター

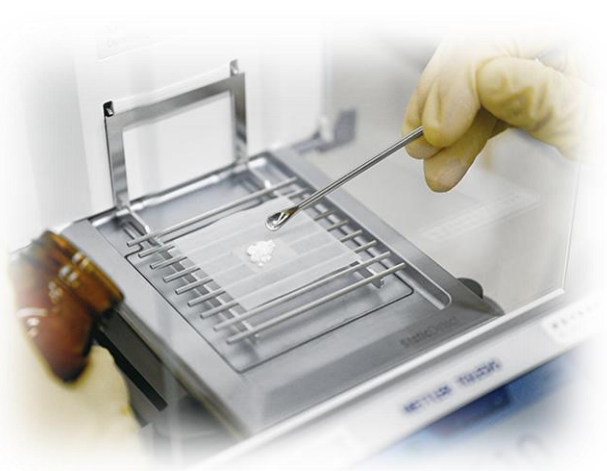
環境経営レポート

暮らしの安心
未来の環境を支えます



2025

1. 環境経営方針 ・ ・ 2
2. 組織の概要 ・ ・ ・ 3
3. 事業内容 ・ ・ ・ ・ 4
4. 環境経営目標 ・ ・ 5
5. 環境経営計画 ・ ・ 6
6. 環境経営目標および環境経営計画の取組み内容 ・ ・ 7
7. 環境関連法規等の順守および評価、訴訟等の有無 ・ ・ 14
8. 全体の評価と見直し ・ ・ 15



環 境 経 営 方 針

一般財団法人山形県理化学分析センターは、環境、衛生、医薬品などの検査、分析および環境アセスメント調査業務を通して、人々の健康を保ち、生物多様性の保全及び循環型社会の推進など自然と人間との調和ある共存に貢献します。また、事業活動に伴う環境への負荷を削減するため、役職員全員が環境経営システムへの理解を深め、以下の活動に取り組めます。

活 動 方 針

1. 業務の効率化を図り、作業時間とエネルギーを削減します。
2. 分析等で使用した器具機材は、可能な限り再資源化に努め、廃棄物を削減します。
3. 環境負荷の少ない製品やサービスを調達します。
4. 多くの人に環境への理解をより深めてもらうため、「美しい地球環境講座」などの環境教育に取り組めます。
5. 環境ボランティア活動への参加を通して、社会貢献活動に努めます。
6. 環境関連法規などを遵守します。
7. 環境経営システムを定期的に見直し、継続的に改善します。

制 定 2006年（平成18年）12月 8日

改 訂 2024年（令和 6年） 4月 1日

一般財団法人山形県理化学分析センター

理 事 長 大 泉 茂

2. 組織概要

(1) 事業所名及び代表者名

一般財団法人山形県理化学分析センター
理事長 大泉 茂

(2) 所在地

本部 〒990-2473 山形県山形市松栄一丁目6番68号
環境調査室 〒982-0003 宮城県仙台市太白区郡山字谷地田東14番19号
飯塚支所 〒990-0845 山形県山形市飯塚町135番地の14

(3) 設立年月日

昭和47年3月28日（一般財団法人登記 平成22年6月18日）

(4) 環境管理責任者

総務グループ 武田 理恵 TEL 023-645-5308

(5) 設立趣意

県衛生研究所はじめ県立山形工業試験場等公的機関でのみ行っていた各種公害の調査分析を補完するとともに、生活環境の汚染に係るより精密な分析能力を培い、さらに各種講習会等を開催して公害防止技術の習得及び公害防止意識の啓蒙を図り、もって公害の防止に資するため設立された。

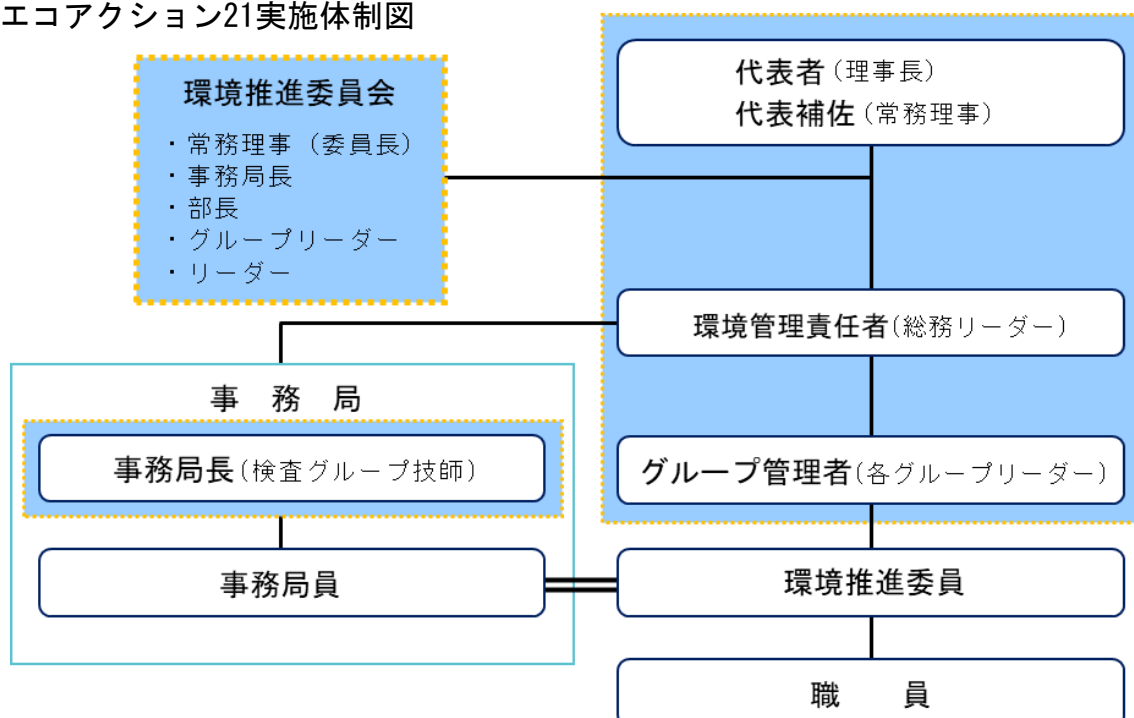
(6) 事業規模（2025年3月31日現在）

基本財産 1億7,283万円
役職員数 58名（内、派遣2名）

(7) 対象範囲および対象サイト

全組織における環境、衛生、医薬品の検査・分析及び調査業務

(8) エコアクション21実施体制図



3. 事業内容

飲料水検査

上水道、簡易専用水道、ミネラルウォーター類、井戸水、プール水、浴槽水など各種法令に基づいた水質検査を行っています。



医薬品検査

医薬品用の主/副原料の理化学試験、微生物試験、製剤の安定性試験、また高薬理活性物質の試験受け入れも行っています。



食品検査

輸入食品の製品検査、残留農薬検査、栄養成分、添加物の分析、異物検査などを行っています。



浄化槽検査

山形県内の浄化槽法定検査を行っています。



各種計量分析

河川、農業用水、工業用水などの水質分析、騒音・振動測定、悪臭の分析、作業環境測定などを行っています。



住宅性能調査

住居における空気音遮断性能、床衝撃音遮断性能、室内静謐性能の測定、シックハウス原因物質の測定などを行っています。



環境調査

大気質調査、騒音・振動・低周波測定、交通量調査、放射線量調査などをはじめとした調査を行っています。また、動植物の調査や、生態系の上位に位置する猛禽類の調査も行っています。



関連する主なSDGs



4. 環境経営目標

環境方針	活動項目	活動目標	区分	目標数値		
				2025年度	2026年度	2027年度
省エネルギー	電力使用量の維持	維持	本部	8,405 kWh/人	8,405 kWh/人	8,405 kWh/人
			環境調査室	1,091 kWh/人	1,091 kWh/人	1,091 kWh/人
			飯塚支所	1,638 kWh/人	1,638 kWh/人	1,638 kWh/人
省エネルギー	都市ガス・LPGの使用量の低減	維持	都市ガス（本部、飯塚支所）	466.5 m ³ /人	466.5 m ³ /人	466.5 m ³ /人
			LPG（環境調査室）	1.6 kg/人	1.6 kg/人	1.6 kg/人
省エネルギー	ガソリン・軽油・灯油使用量の維持	維持	ガソリン（本部、飯塚支所）	1,284 L/台	1,284 L/台	1,284 L/台
			ガソリン（環境調査室）	1,859 L/台	1,859 L/台	1,859 L/台
			軽油（本部、飯塚支所）	860 L/台	860 L/台	860 L/台
			軽油（環境調査室）	2,309 L/台	2,309 L/台	2,309 L/台
			灯油（飯塚支所）	29.5 L/人	29.5 L/人	29.5 L/人
省エネルギー	二酸化炭素排出量の維持	維持	-	428.3 kgCO ₂ /百万円	428.3 kgCO ₂ /百万円	428.3 kgCO ₂ /百万円
省資源	上水道使用量の削減	維持	本部	53.0 m ³ /人	53.0 m ³ /人	53.0 m ³ /人
			環境調査室	13.0 m ³ /人	13.0 m ³ /人	13.0 m ³ /人
			飯塚支所	9.0 m ³ /人	9.0 m ³ /人	9.0 m ³ /人
省資源	一般廃棄物排出量の削減	リサイクル率の維持・向上	-	75 %	75 %	75 %
省資源	産業廃棄物排出量の削減	リサイクル率の維持・向上	-	55 %	55 %	55 %
環境保全活動	環境ボランティア活動への参加	参加職員数の増加	-	15 人	16 人	17 人
環境保全活動	化学物質の適正な管理	PR-TR制度対象物質の購入量の把握	-	継続的監視 1,000kg 以下	継続的監視 1,000kg 以下	継続的監視 1,000kg 以下
環境教育	美しい地球環境講座の共催	開催告知などの広報活動による参加者の増加	-	40 人	42 人	44 人
環境教育	環境教育の実施	環境教育の実施	-	12 回	12 回	12 回

注) 次年度は、2025年度を踏襲して計画する予定です。

5. 環境経営計画

環境経営方針		活動項目	環境経営目的 (数値目的)	環境経営目標 活動の目標	目標達成手法（項目・方法）	
1	省エネルギー	電力使用量の維持	使用量を出来るだけ抑える	維持	電気エアコンの適切な温度管理	
					分析機器の導入・廃棄	分析機器等の導入検討
						分析機器の新規導入 電力消費が増大
						分析機器の更新・廃棄 電力消費の低減・維持
						分析機器の廃棄 廃棄物の増加・フロン使用機器の廃棄
2	省エネルギー	都市ガス・LPG使用量の低減	使用量を出来るだけ抑える	維持	電力量削減のための修繕等 エアコンの適切な温度管理	
					冷暖房切り替え前の掃除	各試験室担当部署で実施
					GHPの定期管理	
3	省エネルギー	ガソリン・軽油使用量の維持	使用量を出来るだけ抑える	維持	エコドライブの推進	
					車両増車・入替	車両入替
						車両増車
4	省エネルギー	二酸化炭素排出量の維持	—	維持	毎月の集計及び四半期ごとの監視報告	目標との比較
						不適合となる予測の有無
					毎月の集計を部長リーダー会議で報告	目標との比較 目標超過項目の対策及び対策の周知
5	省資源	上水道使用量の維持	使用量を出来るだけ抑える	維持	洗浄水、リンス水等の適量使用	
					毎月の集計及び四半期ごとの監視報告	目標との比較
						不適合となる予測の有無
6	省資源	一般廃棄物排出量の削減	リサイクル率を毎年75%以上とする	リサイクル率の維持向上	分類の徹底 (排出量の全量把握)	焼却ごみ・リサイクル量の把握
					収集運搬・処分業者契約確認	四半期毎許可期限を確認
					漏水の監視	水道メーター検量時に確認
7	省資源	産業廃棄物排出量の削減	リサイクル率を毎年55%以上とする	リサイクル率の維持向上	分類の徹底 (排出量の全量把握)	焼却・埋立・リサイクル量の把握
					法令順守	分析機器の廃棄 廃棄物の増加・フロン使用機器の廃棄
					特別管理産業廃棄物の排出	年1回の排出を行う (全量焼却処分)
						リサイクル率の低下
8	環境保全活動	環境ボランティア活動への参加	参加職員の延べ人数を15名以上とする	参加職員の増加	E-TECボランティア活動への参加	
					スポーツゴミ拾いへの参加 業務として行っているボランティア活動	
9	環境保全活動	化学物質の適正な管理	使用量が多いノルマルヘキサンについて、1,000kg以下であることを監視する	PR-TR制度対象物質の監視	対象物質（ヘキサン）の監視を続ける	
					PR-TR制度対象物質の購入量の把握	
10	環境教育	美しい地球環境講座の共催	1開催あたりの参加人数を38名以上とする	開催告知などの広報活動による参加者の増加	美しい地球環境講座の告知	
					美しい地球環境講座への参加	
11	環境教育	環境教育の実施	毎年12回以上環境教育を実施する	環境教育の実施	・学校及び市民団体等を対象 ・学会発表 ・業界団体での講演 ・講習会への講師派遣	毒物劇物取扱者関係講習
						酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習
						浄化槽関係研修会
						その他

6. 環境経営目標および環境経営計画の取組み内容

■ 二酸化炭素排出量

活動目標	目標値	実績値	達成状況
二酸化炭素排出量の低減 (kgCO ₂ /百万円)	428.3	379.74	◎

※1. 電力の二酸化炭素排出係数は、0.457kg-CO₂/kWh(東北電力 2022年度) を使用

【 評価 】
本部で2025年6月に医薬品試験室系統の空調を更新しました（写真1）。都市ガスから電力へ転換されたため、二酸化炭素排出量は減少しました。飯塚支所で2025年11月に全館のLED工事を実施しました。照明の消費電力が削減でき、電気使用量に由来する二酸化炭素排出量の抑制に貢献しました（写真2）。ランプ交換の頻度削減、事業所からの使用済み蛍光灯の排出量削減にも今後期待します。

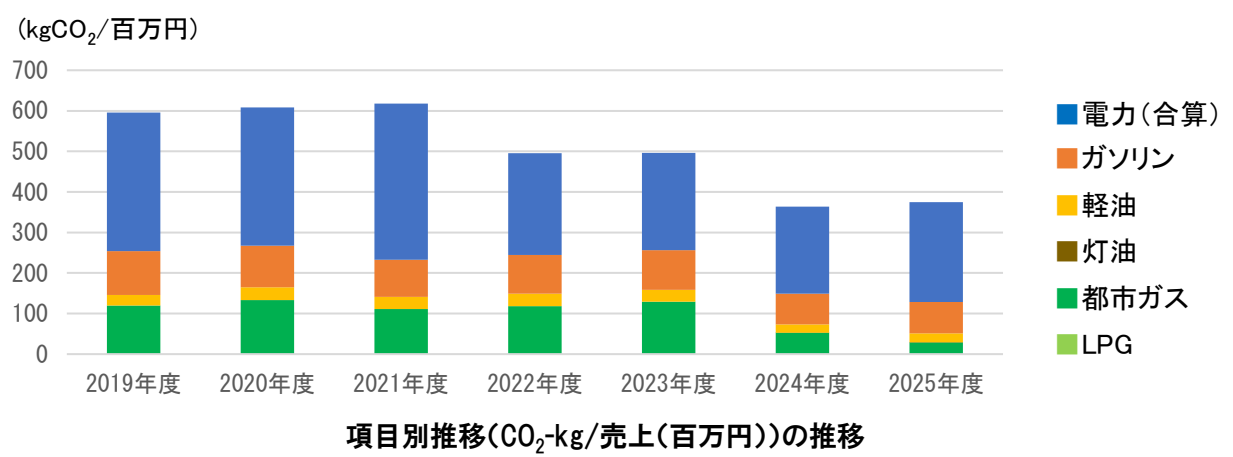


写真1 更新された医薬品試験室系統の空調設備



写真2 飯塚支所におけるLED工事後の各種設備

電力

活動目標	所在	目標値	実績値	達成状況
電力使用量の維持 (kWh/人)	本部	8,405	9,168.3	△
	環境調査室	1,091	1,059.9	○
	飯塚支所	1,638	1,680.5	△

【 評価 】

本部では、2025年6月に医薬品試験室系統の空調を更新しました。GHPからEHPへ変更になり、都市ガス使用量は減少したものの、電気使用量は増加しました。試験室全体の厳格な空調管理が必要で、GHPでは部分的な無駄が生じておりました。試験室の温度管理が個別に行えるようになったことで、非稼働エリアの徹底消灯・消空調が可能となりました。飯塚支所は、2024年10月に開設しており、2025年度の目標値は通年の実績データがなく、予測値を上回る結果となってしまいました。また、本部から3名が移動し増員したことや、賃貸開始により利用者が増加したことも起因していると考えられます。

ガソリン

活動目標	所在	目標値	実績値	達成状況
ガソリン使用量の維持 (L/台)	本部、飯塚支所	1,284	1,229	○
	環境調査室	1,859	1,641	◎

軽油

活動目標	所在	目標値	実績値	達成状況
軽油使用量の維持 (L/台)	本部、飯塚支所	860	813.9	◎
	環境調査室	2,309	2,084.5	◎

灯油

活動目標	区分	目標値	実績値	達成状況
灯油の使用量の維持	飯塚支所 (L/人)	29.5	24.89	◎

【 評価 】

概ね計画どおりの推移となりました。今後も適正な燃料の使用維持に努めます。

ガ ス

活動目標	区分	目標値	実績値	達成状況
ガス使用量の低減	本部（都市ガス） （m ³ /人）	466.5	235.03	◎
	環境調査室（LPG） （kg/人）	1.6	1.64	△

【 評価 】

本部（都市ガス）は、2025年6月の医薬品試験室系統の空調更新でGHP2台のうち1台を廃止しました。これに伴い、定期点検、管理台帳への記録・保管の手間がなくなり、固定費の削減に貢献しました。また、管理の協力業者様へは、メンテナンスで発生していた「廃油（エンジンオイル）」や「廃LLC（冷却液）」、「使用済みフィルター」といった産業廃棄物の削減に貢献できました。環境調査室（LPG）は、消費量が少量であり、今後も継続的に監視していきます。

使用水量

活動目標	所在	目標値	実績値	達成状況
上水道使用量の維持 （m ³ /人）	本部	53.0	102.8	×
	環境調査室	13.0	12.8	○
	飯塚支所	9.0	10.5	×

【 評価 】

本部では、2025年9月水道メーター検針で使用量の異常を確認しました。原因を調査した結果、スクラバー水槽のボールタップが破損していました。速やかに修繕を行ったため、一時的な使用量の増加がみられましたが、そのほかでは平年並みの使用量となりました。

一般廃棄物リサイクル率

活動目標	区分	目標値	実績値	達成状況
一般廃棄物排出量の削減 （％）	全所	75	71.6	△

産業廃棄物リサイクル率

活動目標	区分	目標値	実績値	達成状況
産業廃棄物排出量の削減 （％）	全所	55	72.9	◎

【 評価 】

産業廃棄物のリサイクル率は目標を達成したものの、一般廃棄物のリサイクル率が低下傾向にあります。引き続き各種廃棄物のリサイクルに努めます。

環境ボランティア活動への参加

実施日	名称	場所
9月14日	松島湾藻場再生活動（夏）	宮城県松島町（福浦橋）
9月27日	旧松尾鉱山跡地育樹活動	岩手県八幡平市
10月22日	スポGOMI大会	アルカディアソフトパーク
11月3日	松島湾藻場再生活動（秋）	宮城県松島町（福浦橋）
2月22日	ヨシ刈り体験2026	宮城県石巻市北上町



松島湾藻場再生活動（アマモ種子を砂団子につける）



北上川河口でのヨシ刈り活動



アルカディアソフトパーク内でのスポGOMI大会



旧松尾鉱山跡地での育樹活動

化学物質の適正な管理

活動目標	目標値	実績値	達成状況
化学物質の適正な管理 （PR-TR制度対象物質の使用量）	継続的監視 1,000 kg以下	7.86kg	-

【 評価 】

当センターで監視対象にしている特定化学物質は、「ノルマルヘキサン」です。2025年度中の排出量は、届出対象外であることを確認しています。

■ 美しい地球環境講座（市民セミナー）の共催

実施日	講師	名称	場所	参加数※5
第14回 (4/12)	環境省 水・大気環境局 環境汚染対策室長 鈴木 清彦 様	有機フッ素化合物 (PFAS)に関する取組	仙台戦災復興記念館（仙 台会場）および山形県理 化学分析センター（山形 会場）	49名 (33名)
第15回 (10/25)	山形大学理学部准教授 天羽 優子 様	水をめぐる科学とニセ 科学	山形県理化学分析セン ター	53名 (30名)

※5. 参加者数（カッコ）内は、当センター職員の参加者数



美しい地球環境講座の様子



参加者との交流会(芋煮)

■ 環境教育

活動目標	目標値	実績値	達成状況
環境教育の実施	12回実施	17回	—

高校生が主体となる
SDGsイベント。
展示水槽・生物の手配や
事前講義、資料提供など
協力しました！



高校へ出張授業

■ 環境教育（活動実績詳細）

講師派遣

実施日	名称	場所
5月16日	一般社団法人山形県労働基準協会連合会主催 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習	山形ビッグウイング
6月13日	一般社団法人山形県労働基準協会連合会主催 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習	酒田市総合文化センター
6月30日	まつしま放課後子供教室	松島第一小学校
7月8日	松島フォーラム	宮城県松島高校
7月29日～30日	毒物劇物資格講座 （農林大学校）	山形県農林大学校
7月31日	毒物劇物取扱者受験準備講習 （JA全農・庄内）	JA庄内ビル
8月1日 8月6・7日	毒物劇物取扱者受験準備講習 （山形県薬剤師会）	山形県産業創造支援センター
8月2日～3日	見て触れて楽しむSDGs～守ろう地球の未来を 2025～ 高校生への技術指導	三井ショッピングパーク ララガーデン長町
8月6日	毒物劇物取扱者受験準備講習 （JA全農・内陸）	協同の杜
9月1日	まつしま放課後子供教室	松島第五小学校
9月3日	浄化槽管理士研修	山形県産業創造支援センター
9月10日	一般社団法人山形県労働基準協会連合会主催 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習	酒田市総合文化センター
9月19日	一般社団法人山形県労働基準協会連合会主催 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習	山形ビッグウイング
10月31日	情報Ⅱ「知的財産権について」	宮城県松島高校
12月4日	一般社団法人山形県労働基準協会連合会主催 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習	山形ビッグウイング
1月19日	まつしま放課後子供教室	松島第二小学校
2月6日	一般社団法人山形県労働基準協会連合会主催 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者講習	山形ビッグウイング

■ その他環境保全活動の推進及び5 S運動の実施



社内の清掃活動(月1回の全体清掃)



エコキャップの回収(仙台)

※2kg(860個)で1人分のポリオワクチンが購入できる

エコキャップ受領書			
2025/04/30			
一般財団法人山形県理化学分析センター環境調査室 御中			
〒983-0828 仙台市宮城野区岩切分台 3-1-1 サイコー			
TEL (022) 255-3150 FAX (022) 255-3151			
今回受領個数: 4,300個			
受取日	重量	個数(約)	備考
2025/04/25	10.0kg	4,300個	持込
上記の通り、エコキャップをお受けいたしました。 ご協力ありがとうございます。			
1kgを430個として計算しています。 2kg=860個で1人分のポリオワクチンを 購入することができます。			

エコキャップ受領書

○ TV番組の撮影協力

TV局・番組名	放送域	内容
2025年8月26日放送 日本テレビ「news zero.」	全国	・ 8/25に撮影した映像を速報として放映
2025年10月9日放送 日本テレビ「news every.」	全国	・ 館山にてサンゴ撮影 ・ 冬季から1年かけて調査を実施。サンゴ産卵を狙う。 ・ 東京湾のサンゴの産卵時期を推定し、約30年ぶりにカメラに捉えることができた

当センターの知名度向上と対応項目の多様性を示すために、TV番組をはじめとしたマスコミへの番組制作協力に対応しております。次年度もサンゴや熱帯性の生物の撮影協力を行います。

7. 環境関連法規等の遵守および評価、訴訟等の有無

■ 適用となる 環境関連法規等とその遵守状況

以下の通り2026年2月6日付で確認いたしました

○ 水質汚濁防止法、下水道法

水質を守る事のお手伝いが本業です。当センターから排出される、下水道排水や有害排水処理水を毎月定期的に測定し、監視しています。

○ 大気汚染防止法、悪臭防止法

同法の対象施設ではありませんが、試験検査室のドラフトチャンバー等は、スクラバを使用し、適正な管理運用をしております。スクラバ排水も定期的に測定を行って確認しています。

○ 毒物劇物取締法、化学物質排出把握管理促進法

毒劇物の購入量及び使用量を把握し、管理を行っています。使用量が最も多い化学物質についても届出を要する排出量を下回っていることを確認しています。

○ フロン排出抑制法

業務用エアコン、冷蔵庫、冷凍庫の簡易点検は定期的を実施しています。

○ 消防法

危険物の貯蔵量に関しては、消防法上の指定数量を下回っていることを確認しています。

○ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

ごみ減量化、再資源化に取組み、マニフェストの管理状況等も含め適切な管理を行っています。
2025年度報告書受理確認日 2026年6月29日

■ 法令違反 ・ 訴訟等の有無

これら環境関連法規への違反事例、訴訟等は環境経営マネジメントシステムを導入以降ありません。当センターでは環境経営活動を行うにあたり、該当する環境関連法規ごとに規程と手順書を整備し、自主管理を適正に行っています。

■ 代表者によるマネジメントレビュー

① 環境経営システムの有効性について

2025年度は原単位による目標設定へ変更し、実態に即した運用としたことで、システムは有効に機能していると評価します。水道使用量はスクラバの破損により目標を上回りましたが、速やかな是正処置により目標水準を維持できており、是正対応の仕組みも有効に機能しているものと考えます。

② 環境への取組の実施について

センター全体の取組に大きな問題はなく、概ね適切に実施できていますが、役職員個々の環境意識には温度差があり、引き続き向上に向けた取組が必要です。2025年度からの「原単位」目標については二酸化炭素排出量の目標を達成しており、また松栄本部の試験室増設に伴うGHPからEHPへの変更により、排出総量も削減できています。

③ 変更の必要性について

環境経営方針は、現状改善の必要はないものの、EA21の要求事項や社会情勢の変化を踏まえ、必要な場合は適宜見直します。環境経営目標は「原単位」による設定を継続し、削減の取組を強化するとともに、乖離が大きい場合は見直しを行います。環境経営計画は、2025年度に新たな取組を加えスパイラルアップを図りました。今後は他社の参考事例を探し、環境管理責任者及び事務局員を中心にセンターの取組へ反映していきます（2026年度中に調査、2027年度目標設定時に反映）。環境経営システムは、現状改善の必要はないが、組織変更を踏まえ適宜変更します。



8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

■ 次年度の環境経営目標・計画について

- ① 引き続き「原単位」による目標設定を継続します。
- ② 役職員個々の環境意識向上を図るため、「家庭でも実践できる取組み」などを取り入れて啓蒙活動を行います。
- ③ 他社の活動事例を参考にセンターの取組みへ反映します。
- ④ 効率性と経済性を兼ね備えた新たな取組みを模索します。

■ 中長期の計画について

Our Eco-Action Plan



環境活動団体への支援・協力

NPO と連携した藻場再生活動をはじめとする様々な環境保全活動に貢献します。



地域社会や学校などへ 環境教育の支援・協力

地域の子どもたちへの環境教育、学校などの探求教育への支援をします。



AI・ロボットの導入

業務の効率化・省力化に向け、AI やロボット技術の導入を目指します。



自動分析装置の導入

分析業務の省力化・精度向上で、試薬や有害物質の削減を目指します。



再生可能エネルギーの導入

再生可能エネルギー由来電力プランへの切り替え等を検討し、二酸化炭素排出量を削減します。





対象期間 2025年4月1日～2026年3月31日

発行日 2026年 8月 26日

〒990-2473 山形県山形市松栄一丁目6番68号
HP <https://www.y-rikagaku.jp/>